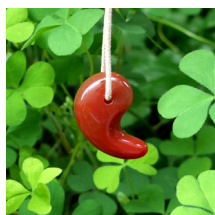


「勾玉」



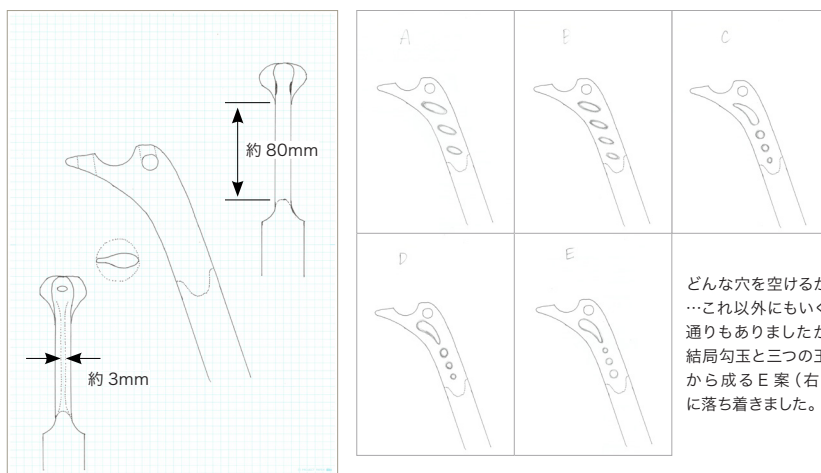
先史・古代の装身具とされる「勾玉（マガタマ）」。由来は諸説ありはっきりしていないようですが、その形から生命やモノの根源のような精気を感じる方も多いのではないのでしょうか…。

▶ OnebyESUのカーボンシートポストは“カーボンムック”が最初のモデルですが、2作目を検討するにあたりムックでのクランプ方式を継承しながらも、目立つ割に単調な形になりがちなボディー側面はエッジの効いた刃のようにしようと考えました。加えて有機体形状を取り入れようと…草原を跳ね回るインパラの脚のように鋭く、強靱な腱のように美しいラインで。

▶そこで、ボディー上部の長さ約80mm部分は、後側の最小幅約3mmと鋭利な前後雫型断面とした上で、国際基準のテストをパスする強度剛性を維持しながらも、更にその側面に穴を開けることにしたのです。その理由は有機体造形への追求にありました。

▶どんな穴を開けるのか…色々考えた末に行き着いたのが「勾玉」形状を軸としたものだったのです。マガタマの持つ有機的な独特のバランス感をカーボンに彫り込むことは難しく、内部構造のパターンを何度も作っては壊しを繰り返しながら、ほぼカーボンの無垢状態に設計し十分な強度を持たせ「カーボンマガタマシートポスト」の完成に至りました。

▶刃部分への勾玉と大中小の三つの穴（玉）の施しは、和も感じさせるものとなり、2009年発表ながら近年使用される方が増えた、大器とは言えないまでも晩成型の商品となっています。



最初のベースとなったデザイン



～製品化には至らなかったシリーズ～（不定期連載コラム）

【第2回】とってもイイけどムリでした

▶1990年前半アメリカの個性溢れるメーカー“odyssey”が開発、その後当社が販売権を譲り受けた「パラレバー」。ブレーキレバーを平行に引くことのできる画期的な製品でした。たとえ非力でもレバーのどの部分を引いても軽いのです。

▶それから数年後、このシステムをドロップハンドル向けブレーキレバーに応用できないか…。とある台湾工場の好き者社長に相談を続けているうちに、巧み行けば凄いと感じてくれたのか、削り出し手作りのプロトタイプを作ってきたのです。頼み込んでおきながら正直なところ驚きました。勿論真面目に商品化したいと考えてのことですが。至らなかった理由は簡単…作る手間がかかり過ぎました。



▲右がフラットハンドル用の「パラレバー」。構造が複雑で手間がかかり生産数全て完売し製造を終えました。左がドロップハンドル用で試作した幻のレバー。

▶ドロップハンドルでもレバーの上部から平行に引くことが可能だったのです…

